令和５年度 学校目標

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○ 個に応じ、幼稚部から高等部にかけた系統立てた指導の実施による日本語の習得を図り、社会で豊かに生きるためのコミュニケーション能力の向上を図る。	① キャリア教育の推進を目指し、各教員の授業力向上及び学部間の系統化を図るために授業研究・授業公開を推進し、カリキュラム・マネジメントを推進する。幼児・児童・生徒の日本語に係る実態を把握し、よりよい習得の方法を検討し、日本語能力に応じた指導の充実を図る。授業場面では、教材研究を充実させ、コミュニケーション能力の向上を図る。子ども自身が自身のキャリア形成を意識できるような指導の工夫を行う。 ② ICT 等を活用し、視覚的支援をいかした指導を行い、個々の資質・能力の育成を図る。	① 一人ひとりの研究授業や研究協議を通じて授業力向上を図る。 他学部の研究授業・公開授業を通して、学部の系統性を整理する。そのうえでミッションや学校目標を達成するためのカリキュラム・マネジメント（教育課程の整理・指導内容の整理・指導方法の検討、教科横断的な指導の検討など）を行い、一人ひとりの実態把握や適切な課題設定など、個別教育計画に基づいたよりよい授業を行う。 キャリアパスポートの活用などを通して、自身のキャリアを考えたり、自己理解を促したりするとともに、会話などを通して、人と関わる力の向上を目指す。 ② 障害や発達段階に応じた視覚的支援を行い、よりわかりやすい授業づくりに取り組み、理解を促したり、思考を深めさせたりする。	① 多くの教員が研究授業を行い、自身の授業力向上を図れたか。 他学部の研究授業・公開授業への参観を通して、学部間の系統性を整理することができたか。また、一人ひとりの実態把握や適切な課題設定などを行い、個別教育計画に基づいたよりよい授業づくりにつなげられたか。子どもたちのコミュニケーション能力は高まったか。 ② 個に応じた視覚的支援を行い、わかりやすい授業を行うことで、理解を促したり、思考を深めさせたりすることができたかのアンケート等を行い効果を検証する。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○ それぞれの障害や発達段階 を十分把握し、個のニーズに応じた指導・支援を行うとともに、集団活動を通して、協調性や思いやりの心を養い、自己肯定感を高める。	① 配慮の必要な幼児・児童・生徒の情報共有を図り、健康と安全を守るとともに、一人ひとりのニーズに応じ支援を行う。 校内で起こる様々な事案に対し、組織的に速やかな解決を目指す。 ② 個別の指導と様々な集団活動を通して、自己理解や達成感を育み、合わせて互いの良さを認め合う取組を進める。	① 関係職員とケース会を設定し、情報共有を図り、具体的な支援策の検討を行い、実行する。併せて効果の検証を行う。 事案が生じた際に、関係部署が連携し、課題の整理を行い、適切な対応による速やかな解決に導く。 ② 学部学年を越えた集団活動や部活動（文化的活動・体育的活動）を通し自己肯定感を育み、協調性や社会性を養う。	① ケース会で情報を共有することで、指導上必要な配慮を行い、健康と安全を守ることができたか。また、適切な支援を行うことができたかを具体的成果から検証する。 事案が生じた際に、関係部署が連携し、課題の整理を行い、適切な対応による速やかな解決に導くことができたか。 ② 集団活動を通して、互いの良さを認め合い、自己肯定感を高めることができたかを行動変容等から検証を行う。
3	進路指導・支援	○ 幼児・児童・ 生徒・保護者のニーズを踏まえ、自立と社会参加に必要な学力と社会性、及び豊かな人間性を養い、適切な職業観を育み、主体的な進路選択ができるよう指導・支援を行う。	① 幼稚部・小学部・中学部・高等部の各段階において、 個のニーズに合わせた課題設定や体験的な学習を通し、主体的に進路選択できる、またはつながる力を育む。 ② 一人ひとりの進路実現に向け、必要な情報を提供するとともに一人一人のニーズに応じた支援のあり方を考え、適切な支援を行う。	① 各学部の活動に将来の進路選択につながる具体的な視点を取り入れ、教育内容や指導方法の充実を図る。高等部においては、地域の企業や大学等と連携し、見学や実習を通して、意欲と心構えを育て、それぞれに必要な支援を行う。 ② 卒業生など聴覚障害のある社会人と接する機会を設定する等、生徒への情報提供を行い、進路だよりや学習会などを通し、保護者への情報提供を行い、適切な進路指導・支援を行うことができたか。	① 進路担当と学部の担当者が協力し、各学部の活動に将来の進路選択につながる具体的な視点を取り入れ、教育内容や指導方法を充実させることができたか。適切な職業観や進学に向けた意欲を育成することができたか。また、個のニーズに応じた支援を行うことができたか。 ② 進路選択をしていくうえで、必要な情報を適切に提供することができたか。本人や保護者の希望に沿った進路指導や支援を行うことができたか。
4	地域等との協働	○ 「ともに生きる社会」の実現に向け、地域における支援教育に関する専門性の向上を図ると同時に地域の住民等との協働による活動を進める。	① 関係機関との連携を図り、ニーズに応じた相談支援を推進する。 ② 切れ目のない支援体制の構築に向けて、地域の支援力向上のための情報発信や支援を充実させる。 ③ 交流及び共同学習、その他、様々な場面を通じて学校外の人との関わりを設定し、自己有用感を高めたり、普段関わりの少ない人との関わり方を学んだりする。	① 校内外の相談ケースについて、病院や福祉機関との情報交換を計画的に行い、支援ニーズの把握と支援策の見直しを行う。 ② 家庭や保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、医療、福祉等と連携し、的確な支援ニーズの把握や具体的な支援策の共有を図る。 ③ よりよい交流および共同学習のあり方を交流先と十分に検討し、実践する。また湘南ベルマーレ等の外部団体と連携し、地域の人と一緒に活動する機会を増やす。そのことにより、子どもたちの人と関わる力の向上を図る。	① 関係機関と計画的に連携し、相談ケースの指導や支援にいかすことができたか。 ② 地域で学ぶろう難聴児の指導と支援の充実につながる情報発信や支援を行えたか。 ③ 各学部の実態やねらいに合った、よりよい交流及び共同学習のあり方を検討し、計画的に実施することができたか。 また、外部団体等との活動を計画し、実施することができたか。 様々な活動を通して、子どもたちの人と関わる力の向上につながったか。
5	学校管理 学校運営	○ 安全で安心できる指導・管理体制の整備を進め、学校の危機管理能力を高める。 ○ 教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。	① 保護者との連絡体制を含め、非常時を想定したできる限りの実践的な取組を推進する。適時適切な情報の発信に努める。 ② 幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保する方策を検討し、時間を生み出すことで、適切な支援につなげる。	① 「平ろうメール」を効果的に活用して情報発信するとともに、体験的で実効性のある訓練を継続的に行い、より効果的なものとする。 突発的な事案に的確に対応し、必要な情報の発信を行う。 ② ポータルサイトを活用して資料を提示する等の工夫を行い、会議の効率化と時間短縮を目指す。また、さらなる方策の検討を行う。 アンケートで効果の検証を行う。	① 非常時を想定した体験的で実効性のある取組を推進することができたか。 また、今後の方向性を確認できたか。 ② 会議時間を短縮し、幼児・児童・生徒と向き合う時間を確保することができたか。また、そのことが適切な支援につながったか。また、働き方改革の実感を職員がもてたか。